

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2020年 4月 15日 提出

1. 研究課題名	
京都を起点とした染色技術及びデザインのグローバルな展開に関する研究 (英文標記: Research of Kyoto-based Global Development of Printing Techniques and Designs)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな) かも みずほ	所属機関・職名
加茂 瑞穂	京都工芸繊維大学・JSPS 特別研究員 RPD
3. 研究分担者 (合計: 7 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
並木誠士(なみきせいし)	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科・教授、 同大美術工芸資料館・館長
青木美保子(あおきみほこ)	京都女子大学・教授
鈴木桂子(すずきけいこ)	衣笠総合研究機構・教授
上田文(うえだあや)	関西学院大学・非常勤講師、同志社女子大学・非常勤講師
杉浦未樹(すぎうらみき)	法政大学・教授
山本真紗子(やまもとまさこ)	立命館大学・授業担当講師、京都精華大学非常勤講師

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>本研究課題では、近代京都を起点として染色産業がどのように国内外へ展開されてきたのか、あるいは影響を受けてきたのかを染色技術やデザインを通じて明らかにする。そのために、学術資料として俎上に上がっていない近代染織史に関連する資料の整理・蓄積を進め、伝統的地場産業と位置付けられてきた京都の染織が実はグローバルな展開—近代以降の西洋技術・デザインの導入だけではなく、戦前から始まるアジア・アフリカへの製品輸出・海外事業展開も含む—をしてきたことを明らかにする。また、研究対象となる染色資料を整理してデータベース構築を進め、近代染織史研究者が研究利用し易いデータベースのあり方について工夫・検討する。更に、当該データベースを活用して染織資料の情報を一元化することを目指す。染色産業の国内外への展開については、特にアフリカンプリント、バティック、ヨーロッパでの機械捺染等の基礎調査とデジタル化を進める。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

1.寄贈資料(アレワ・テキスタイルズ製のアフリカプリント)の整理

京都工芸繊維大学美術工芸資料館にアフリカプリントの寄贈を受けた。1960年代に、日本企業の協同出資によって設立されたアレワ・テキスタイルズのナイジェリアでの捺染産業の状況を示す貴重な資料群である。2019年度は、基礎データ(採寸、染色技術、生産地)の整理のほか、資料館への登録作業を進めた。

2.染織雑誌の整理

『染織α』は染織と生活社が刊行した雑誌(現在休刊中)で、昭和56(1981)年から平成19(2007)年まで染織愛好家のために、染織の技法や世界各地の染織品を写真入りで紹介してきた。一部資料の提供を受けながら本プロジェクトにおいて刊行時期全体の内容把握と目次の整理を進めるため、文字検索可能な電子ファイル化をおこなった。

3.長江家所蔵染織関連資料デジタル化プロジェクト

下絵、色見本、小紋見本、図案集、注文台帳など約50冊(明治4年から昭和5年頃のものを含む)をNPO法人デジタル・アーカイブ研究所に協力いただきながら、修復・デジタル化をおこなった。

4.染織従業者らへの聞き取り調査

- ・2019年6月24日 機械捺染の広巾銅ロールの彫刻を行っている明向製版株式会社(向日市)の見学をした。
- ・2019年7月29日 現在も小幅の機械捺染を行う東洋捺染(京都市下京区)の工場を見学した。

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)**(1) 著書**

- ・ Keiko Suzuki, and Bergmann, Annegret, eds. *Collected Papers from the Freie Universität Berlin-Kobe University-Ritsumeikan University Joint Workshops in 2017 and 2019, Art Research, Special Issue, vol. 1.* 2020年2月、全139頁。
- ・ 松田有紀子・田中圭子・山本真紗子・片山詩音編『花街と芸妓・舞妓の世界: 継がれゆく全国各地の芸と美と技』誠文堂新光社、2020年2月、全272頁。
- ・ 並木誠士・上田文・青木美保子『アフリカプリント 京都で生まれた布物語』、青幻舎、2019年5月、全167頁
- ・ 岡達也、加茂瑞穂『図案家の登場—近代京都と染織図案 III』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、2019年8月、全24頁。
- ・ 石上阿希・山本ゆかり・加茂瑞穂・渋谷区立松濤美術館『女・オンナ・おんな—浮世絵にみる女のくらし』、渋谷区立松濤美術館、2019年4月、全215頁。

(2) 論文**査読有**

Miki Sugiura, 'Value' in *Textile History* 50-1, August 2019, 93-98.

上田文「京都の機械捺染と近代の緋—デザイン、技術、図案家をめぐって」『デザイン理論』74、2019年8月、pp.19-32。

査読無

- ・ 山本真紗子「「大原女」のいる風景」仲間裕子・竹中悠美編『風景の人間学』三元社、2020年3月、pp253-274。
- ・ 前崎信也・山本真紗子「工芸品」『文化情報学辞典』(村上征勝監修) 勉誠出版、2019年12月、pp410-416。
- ・ 青木美保子「ローラー捺染図案を今ふたたび」日本繊維製品消費科学会誌『消費科学』Vol.60 No.11、2019年10月、pp.10-16。
- ・ 上田香・加茂瑞穂「千總コレクションにみる明治・大正期の型友禅とその生地」『嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学 紀要』第45号、2020年3月、pp.1-8。
- ・ 鈴木桂子「機械捺染とデザインに見る越境性」、『きものとデザイン—つくり手・売り手の一五〇年』(島田昌和編) ミネルヴァ書房、2020年3月、pp.127-151。
- ・ 加茂瑞穂「染色デザインの近代化—京都における友禅図案募集をめぐって」『きものとデザイン—つくり手・売り手の一五〇年』(島田昌和編)ミネルヴァ書房、2020年3月、pp.21-45。
- ・ 加茂瑞穂「服飾—多様な資料を活用するための文化情報学的アプローチ」『文化情報学辞典』(村上征勝監修) 勉誠出版、2019年12月、pp.417-423。
- ・ Miki Sugiura, 'Garments in Circulation: The Economies of Slave Clothing in the Eighteenth-Century Dutch Cape Colony' in B. Lemire and G. Riello eds., *Dressing Global Bodies, The Political Power of Dress in World History*, Routledge, 2019, pp.104-130.
- ・ 加茂瑞穂「「衣」をコーディネートする — 京ごふくおか善」ほか、松田有紀子他編『花街と芸妓・舞妓の

世界: 継がれゆく全国各地の芸と美と技』誠文堂新光社、2020年2月、pp.120-123, 190-191, 220-221。

(3) 研究発表等

- ・ 高橋晴子、津田光弘、八村広三郎、鈴木桂子 「ヴァーチャル・インスティテュートの可能性—身装文化デジタルアーカイブの更なる活用に向けて」、第66回特別編 ARC セミナー、2020/01/15
- ・ Keiko Suzuki, “Aloha Shirts and Sukajan: Their Circulation and Domestication throughout Asia,” 国際シンポジウム”The Many Shapes of Meaning: Object and Performance in Asia (意義の多様性: アジアにおけるモノと表現),” 九州大学、2019/12/7 (招待講演)
- ・ 鈴木桂子 「機械捺染とデザインに見る越境性」(パネル「消費とデザイン-着物からのアプローチ」)、経営史学会 第55回全国大会 2019/10/27 (査読有)
- ・ 鈴木桂子 「ICOM2019 京都における CIDOC 研究発表報告および今後の課題 2」、身装文化デジタルアーカイブ研究会、2019/10/04
- ・ Haruko Takahashi, Kozaburo Hachimura, and Keiko Suzuki, “An Image Digital Archive on the Clothing Culture in Japan from 1868 to 1945,” 第25回 ICOM(国際博物館会議) 京都大会 2019, 2019/09/03 (査読有)
- ・ 加茂瑞穂「友禅協会による『伊達模様』募集とその周辺—明治後期における流行創出との関わり」、第61回意匠学会大会、滋賀県立大学、2019/8/8(査読有)
- ・ 加茂瑞穂「染色デザインの近代化—京都における図案募集をめぐる」(パネル「消費とデザイン-着物からのアプローチ」)、経営史学会 第55回全国大会 2019/10/27 (査読有)
- ・ 並木誠士「和歌浦図研究—名所風俗図の成立をめぐる」(意匠学会第61回大会、於: 滋賀県立大学) 2019/8/8 (査読有)
- ・ 並木誠士「地方美術館がつくる新たな美術史」(台湾藝術史学会国際学術シンポジウム「世界、地域及多元當代視野下的臺灣藝術史」招待発表) 於: 国立台湾美術館、2019/11/17
- ・ 上田文「機械捺染について」フォーラム「近代遺産を伝えるために」京都工芸繊維大学美術工芸資料館名品展「うつる染 機械捺染の技術と図案」開催記念、丹波生活衣館、2020/1/26

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

- ・ シンポジウム「近代京都と図案家」、京都工芸繊維大学 2019/9/14、24名、京都工芸繊維大学60周年記念会館

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

- ・ 「忘れられたアフリカプリントに光—『京都で生まれた布物語』刊行』『京都新聞』8面(文化)、2019年9月30日
- ・ 加茂瑞穂「きものに見るモダン生活の軌跡—日常きもの華やかさ』『大阪日日新聞』8面、2020年3月31日

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

- ・ 「近世後期から明治期京都における染織意匠の展開に関する研究」特別研究員奨励費、2017年4月-2020年3月、代表者: 加茂瑞穂
- ・ 鈴木桂子「染色デザインの世界的連環—「きもの」文化を中心に」、基盤研究(C)、2018年4月-2021年3月、代表

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他

展覧会企画

- ・ 岡達也・加茂瑞穂 展覧会「図案家の登場—近代京都と染織図案 III」、京都工芸繊維大学美術工芸資料館 2019/8/26-2019/10/6